

東海テレビ・フジテレビ系全国ネット

東海テレビ×FOD 共同制作

土ドラ

バントマン



写真① バントマン ポスタービジュアル

2024年11月9日(土) 23:40

「複雑なスポーツだからこそ、ドラマが生まれる」

野球を愛する脚本家・矢島弘一

戦力外通告を受けたプロ野球選手の第二の人生を描く、東海テレビ・フジテレビ系土ドラ『バントマン』(毎週土曜日23時40分)。主人公・柳澤大翔を演じる鈴木伸之や、ルーキー・七海真矢を演じる生田俊平など野球経験者が数多く参加していて、ドラマにリアリティを添えている。

脚本を担当する矢島弘一もその一人。子どもの頃から野球を続け、今はヤクルトスワローズの応援と地域の少年野球チームのコーチを任されるなど、野球愛に溢れた人として知られている。そんな彼だからこそ描くことができたベースボール・ヒューマンドラマ『バントマン』。ドラマ誕生に至る経緯や作品に込めた想いを聞いた。

主人公のリアルな設定に対し、ストーリーは思い切って突拍子もないものに

—— このドラマが誕生したきっかけを教えてください。

矢島 「野球のドラマを作りたい」というお話をいただいて、その時点ではバントの犠牲心をテーマにしたいという、作品のイメージを伺いました。お仕事モノにしたいというお話もあったので、「エースで四番」を担っていたプロ野球選手が戦力外通告を受けて…、みたいな流れが出来上がったんです。

バリバリの体育会系だから、逆に女性の多い下着会社みたいなところで働く設定もアリかなと思いましたが、野球選手のセカンドキャリアという部分にリアリティがある分、思い切って突拍子もないストーリーにしようという話になり、物語の展開が決まっていきました。



写真② 脚本を担当した矢島弘一

—— 柳澤大翔というキャラクターはどのように作られたのでしょうか。



写真③ 柳澤大翔(鈴木伸之)

矢島 鈴木伸之さんに演じていただくことが決まった時点で、熱くてちょっと抜けている主人公で行こうと。キャラクターとしては、子どもの頃から野球一筋で、ずっとエースで四番。周囲から羨望の眼差しを浴びて育ってきたと思うんですね。

そういう意味では、「ちょっと調子に乗っている的な部分もあるだろうな」とか、「これまでの成功体験から、なかなか変化を受け入れられないタイプだろう」とか、そんな感じで固めていきました。

—— 野球の戦術も、物語の展開に上手く絡んでいますね。

矢島 ストーリーに大きな流れはありつつも一話完結なので、毎回登場するゲストの悩みと野球の設定や戦術をリンクさせているのですが、そこは苦労しました。もちろん、ゲストの悩みは大翔の悩みにもリンクさせる必要があります。そうやって毎話構成していったのですが、後半になると徐々に野球ネタも尽きてきて…。かなり大変でしたね。



写真④ 柳澤大翔(鈴木伸之) 根鈴 華(倉科カナ)

矢島は、劇団東京マハ口主宰で、ドラマ『毒島ゆり子のせきらら日記』(TBS)、『八月は夜のバッティングセンターで。』(テレビ東京)、『風よ あらしよ』(NHK BS)、『やさしい猫』(NHK 総合)、映画『六人の嘘つきな大学生』(11月22日公開)など、数々の話題作を手がけてきた。自他ともに認める大の野球好きで、プロデューサーの東海テレビ遠山圭介は、「劇団東京マハ口の舞台を何度か拝見し、ストーリー構築の面白さはもちろん、ファンならくすっと笑えるマニアックなプロ野球ネタを合間にはさむ手法が個人的にとっても面白く、今回の企画を一緒に作り上げていきたいと思った」と矢島に脚本を依頼した理由を話す。

スクイズを褒めてくれた、ヤクルトのあの選手

—— 矢島さんご自身も、実際にプレーされていたんですね。
矢島 はい。小学校の学童野球から始まって、中学でも野球部に入りました。足が速かったので一番打者を任されたり。ただ、高校時代は野球部のきつい練習や坊主になることが嫌で、別の部活を選んだんです。友人からも誘われていたのになぜ野球部に入らなかったんだろうと、今になって後悔しています。その後は草野球チームなどでもプレーをしましたが、現在は子どもの学童野球のコーチとして野球にかかわっています。



写真⑤

—— ご自身のバントの思い出は？

矢島 私の叔父が、早稲田実業の野球部に所属していたんです。同学年に元ヤクルトスワローズの大矢明彦さんがいて、自宅に遊びに来たり、僕の試合を見に来たりされていました。僕が小学校5年生の時に学童野球の試合でスクイズを成功させたことがあったのですが、それも見に来てくれて。試合後に褒められたことを覚えています。それからですね、僕が熱狂的なヤクルトファンになったのは。

—— ヤクルトや中日ドラゴンズで、印象に残っている試合があれば教えてください。



写真⑥

矢島 いろいろありすぎて全部は語れないのですが(笑)、古くは荒木大輔さんのプロ入り初勝利から、最近では村上宗隆選手の56号本塁打、そして今年は青木宣親さんの引退試合と、すべて神宮球場で見ましたね。ちなみに中日ドラゴンズに対しては、ヤクルト目線と言うと落合さんの時代にかかなり痛い目に遭ったことが忘れられません。だからなのか、手堅い野球をするイメージがありますね。

野球の持つ複雑性が、劇的なドラマを生む要因に

—— 矢島さんにとっての、野球の魅力を教えてください。

矢島 野球が好きすぎて、これも一言では語れないのですが(笑)。何だろう…、俗に言う「筋書きのないドラマ」という部分も大きな魅力ですね。

野球って、他のスポーツと比較しても非常に複雑なスポーツだと思うんです。球種を変えながらボールを投げて、それを打って、出塁してホームベースを目指す。ただゴールを目指すわけではない野球ならではの複雑性が、劇的なドラマを生む要因になっているのではないのでしょうか。だから野球ファン一人ひとりに思い出深いシーンがたくさんあるし、それがその人の人生ともリンクしているんだと思います。



写真⑦

—— このドラマを通して伝えたいことは何でしょうか？

矢島 今の時代、日本や世界にはさまざまな問題があって、そこで苦勞している人がたくさんいるわけです。ドラマの世界には、そうした人たちに光を当て壁を乗り越えていく物語がとても多く、実際に自分もそんなストーリーを描いてきました。ただ今回は、プロ野球選手のセカンドキャリアといったリアルな話を描きつつも、まずは楽しく見てもらいたいと思っています。物語の展開として突拍子もない部分もありますが、見終わった後に少しでも前向きになってもらえたらいいですね。



写真⑧ 柳澤大翔(鈴木伸之)

—— 今後の見どころや、視聴者の皆さんへのメッセージをお願いします。



写真⑨ 根鈴 華(倉科カナ)

矢島 第5話では倉科カナさん演じる根鈴華の背景が明らかになるのですが、その後もバントマンたちそれぞれの物語が描かれ、なぜ彼らがSBOに集まったのかが見えてきます。そして大翔がプロ野球の世界に再チャレンジするののかも今後の展開の軸になるので、期待してほしいですね。

またこれまでもプロ野球に関するさまざまなネタが挟み込まれてきましたが、今後も応援歌が題材になるなど野球ネタが随所に出てくるので、そこも楽しんでもらえればと思います。

今夜放送の第5話は、バントマンの戦略だけでなく、華と母の霞が運営するキッチンカーのメニューに対して、大翔が野球に見立てて解説する。矢島の野球愛をたっぷり堪能できるので、ぜひ楽しみにして欲しい。

【第5話あらすじ】

華(倉科カナ)の母・霞(熊谷真実)は、華に手伝ってもらうことを前提に定食屋再開の話を進めていた。「今の会社で働き続けるより、手に職をつけたほうが華のためになると思うの」と強引な霞に言い返すことすらできない華。実は「華のためになる…」という霞の悪気のない一言が、子どもの頃から華を縛ってきたのだった。そんな様子を感じ取った大翔(鈴木伸之)は、社長の櫻田(坂東彌十郎)とともに行動を開始する。



写真⑩ 根鈴 霞(熊谷真実)根鈴 華(倉科カナ)



写真⑪ 柳澤大翔(鈴木伸之) 櫻田誠一郎(坂東彌十郎)

概要

【放送日時】 2024年10月12日(土)~12月21日(土)

毎週土曜 23時40分~24時35分 / 全11回(予定)

【出演】 鈴木伸之 倉科カナ 平原テツ 阿久津仁愛 石川瑠華 和田雅成 熊谷真実
/ 朝加真由美 モロ師岡 / 坂東彌十郎

【脚本】 矢島弘一 富安美尋

【音楽】 斎木達彦

【主題歌】 鈴木伸之『生涯HERO』(Sony Music Labels)

【オープニング曲】 WOLF HOWL HARMONY『ROLLIN' STONES』(rhythm zone)

【演出】 千葉行利 丸谷俊平

【企画】 市野直親(東海テレビ)

【プロデューサー】 遠山圭介(東海テレビ) 馬場三輝 (ケイファクトリー)

【制作協力】 ケイファクトリー

【制作】 東海テレビ FOD

〈広報担当〉

■ 東海テレビ 東京編成部	山本聡美	TEL:03-3503-1391
コーポレートブランディング部	金岡未紗	TEL:052-954-1131